

京都の福祉

発行 京都市社会福祉協議会



2010
8
No.502

本紙は、共同募金の
配分金によってつくられています。



主な記事

- 1面…もえくさ
- 2・3面…つながろう うみだそう 企業と福祉 京都から
- 4・5面…高齢者の新たな住まい方を考える(最終回)
- 6面…寄付お礼
「NPO・ボランティア活動助成プログラム」他
- 7面…新規賛助会員の紹介
- 8面…夢中!・熱中!ふくしびと

もえくさ

▼「ほなっしー あんぱっしーとまたちっくっしー!」地域で安心してはたらき、生活できる制度をつくらう!。これは、6月初めに京都で開催された「第16回ピープルファースト大会 イン 京都」のメイン・スローガンである。この大会の京都開催は今回が初めてで、17都道府県と韓国からの参加者を含め、2日間で900名余の参加があった。▼「ピープル・ファースト」は、知的障害をもつ当事者の団体。1973年、アメリカのオレゴン州の少女が「知恵遅れ」や「障害者」ではなく、「ほず人間」(PEOPLE FIRST)と扱われたい」と発言したことがきっかけとなって広まった運動で、自分たちの権利擁護を自分たちの力でおこなっていく。差別をはね返し、生きる地平を切り開こうというものである。日本でも90年代より輪が広がり、各地で当事者の活動がある。京都における活動は2000年から始まり、毎月の例会や交流等が取り組まれている。▼大会の幕開けは、会場の手拍子にあわせた参加者の入場行進。手作りのプラカードを持って入場する、各地参加者代表の誇らしい笑顔が印象的で、韓国からの参加者入場の際は、ひときわ大きな拍手が会場に響いた。司会進行は、障害のある当事者が交替で行い、その様子を見守る支援者等の会場全体が、暖かく・和やかな空気に包まれていた。▼大会には泉健太内閣府政務官も出席し、障害者制度改革への最近の取組を説明するとともに、7名の代表者からの訴え・質問に対して「できる限り要望に応えたい」と応答する場面があった。また、奈良県で知的障害者を雇用し虐待・搾取していた事件についての報告も行われた。2日目の分科会は、仕事、恋愛・結婚・子育て、自立生活、権利条約など11のテーマに分かれて話しあわれた。▼締めくくりの大会宣言は、次のように結ばれている。…わたしたちは、みんなと同じように人間らしく生きる権利があります。…わたしたちは、どんな差別にたいしても、声を出していけるように、仲間どうしではげましあってたたかいます。仲間とともに、地域のなかで自分らしく生きるための福祉サービスや仕事の場を作ることを社会にうたえていきます。それが自分のため、仲間のためになることを信じて。わたしたちは「しょうがいしゃ」である前に人間なんだ!。地域のなかで自分らしく生きる。ことを支援する地域福祉は、このアピールを正面から受け止めていく使命を持っている。▼世界的な異常気象、列島各地で猛暑による熱中症の被害、突然の豪雨・突風等による被害が多発している。読者の皆さん、体調管理と災害への備えをもう一度点検しましょう。

きょうと福祉パートナー事業では企業の本業と福祉のノウハウを有機的に結びつけて、双方にメリットのある関係を創り出す「地域展開型CSR活動」を推進しています。今号では、2社の「地域展開型CSR活動」事例、全国初の新しいCSRスタイルとなる「きょうと福祉救援コーポレートカード」の取り組みなどをご紹介します。

全国初の新しいCSRのスタイル 「きょうと福祉救援コーポレートカード」がスタートします

この企画は、「きょうと福祉救援コーポレートカード」で決済した際に、金額に応じて付与されるポイントを「きょうと福祉救援基金」として造成し、福祉施設に対して、災害時で被害を受けた場合の復旧費用や福祉サービスの向上を目的とした費用を助成しようとするものです。

企業にとっては、口座引落しや振込みをしていた代金の決済をクレジットカードに変えるだけで取り組める、企業の業態や規模を問わない新しいCSRのプログラムであり、福祉施設にとっては、相互支援型で独自の財源づくりができる京都の福祉施設独自の新しい仕組みとなります。

メールマガジン 「きょうと地域展開型 CSR活動News」 の配信をはじめました

きょうと福祉パートナー事業が推進している「地域展開型CSR活動」の事例紹介やCSRに関するイベント情報、企業から発信する「こんな施設を求めています」、福祉施設から発信する「こんな企業を求めています」といった情報を月1回、メールマガジンとして配信しています。ご関心のある方、是非ご登録ください。

登録は、きょうと福祉パートナー事業ホームページから行うことができます。

■きょうと福祉パートナー事業に関するお問い合わせは…

きょうと福祉パートナー事業推進チーム

TEL 075-252-6292

FAX 075-252-6312

Email : partner@kyoshakyo.or.jp

URL <http://www.f-partner.jp/>

“人を生かす”雇用ガイド ～障害者雇用編～

障害者雇用に取り組む3社の中小企業の事例をとおして、障害者雇用の実際や魅力を発信するとともに、障害者雇用に関する各種の支援策を分かりやすく解説した冊子『《人を生かす》雇用ガイドブック ～障害者雇用編～』を発行しました。

冊子は、きょうと福祉パートナー事業のホームページからPDFでダウンロードすることが可能です。また、印刷物を希望される場合は、ご自身の郵便番号、住所、氏名、電話番号を記入したメモと、140円分の切手を同封して京都府社会福祉協議会までご請求ください。

発見！ 丹後地域を支える企業のチカラ =企業の地域貢献活動に関するアンケート調査報告書=

京丹後市社会福祉協議会との共同により、京丹後市内の企業約1,700社を対象に、企業の地域貢献活動に関するアンケート調査を実施しました。全回答数の80%以上を10人未満の企業が占めており、このような小規模企業の地域貢献活動の実態が明らかとなった調査は珍しく、貴重な調査結果となっています。

報告書は、きょうと福祉パートナー事業のホームページからPDFでダウンロードすることが可能です。是非ご覧ください。

つながろう うみだそう 企業と福祉 京都から

女性向けの魅力的な雑貨を企業・福祉の協働で ～ソーシャルZakka展～

平成22年6月11日（金）～13日（日）、京都市役所前の地下街 ZEST御池で、「こころがふわっと やさしく あたたかくなる ソーシャルZakka展」が開催されました。このイベントは、企業と福祉施設が協働して企画・製造した女性向けの雑貨を展示・販売するもので、企業2社〔（有）ぐるーぷカムカム、（株）マイファーム〕、福祉施設3施設〔青空工房、サリュ、西寺育成苑〕が参画しています。「福祉施設の商品だから買ってあげる」から「いい商品だから買う（買いたい）」に想いを変化させる試み。新しい取り組みが京都からはじまっています。



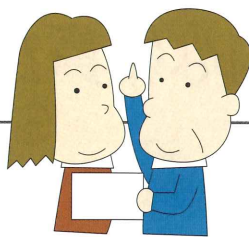
オリジナル商品の発注を通じた 企業と福祉施設のつながり

京都、大阪に6店舗の居酒屋を運営する「あんじ」では、京都市中京区にある知的障害者通所授産施設 京都市かしの木学園に、お店で使う取り皿を発注されています。とても味のある取り皿で、1枚1枚、手書きで「感謝」「笑顔」「おつかれさま」「おかえり」などのメッセージが書かれています。お客様にも大変好評で、居酒屋あんじ 府庁前店ではお店の入り口にもディスプレイされています。

「高齢者の新たな住まい方を考える」を終えて

物と環境の両方を踏まえた「生活空間」づくり

コーポラティブハウス



「今ではこの家を
終の棲家にしたいと考えています。」
（「さくらコート」入居者の美留町さん）

さくらコートでは、「いつまでも安心して住み続けられる住まい」を目指し、同じ思いの仲間がご近所のつながりを積極的に築き、一緒に未来を描いています。

暮らしをともにつくる 生活の選択をキーワードに取材開始

2009年11月号と2010年2月号、5月号の3号にわたって、「高齢者の新たな住まい方」について紹介してきました。そのうち、2回は、「暮らしをともにつくる生活の選択」をキーワードとして、

住民それぞれが生き方や生活について考え、お互いの思いをすり合わせ、「住まう場」を作り上げていくコーポラティブハウス。「住まい」の立地や設計など環境のデザインと合わせて、「住まい方」をみんなで話し合っていていく過程で、「つながり」を生み「安心して住み続けられる地域」をつくっている様子を知ることができました。

特別養護老人ホーム 老人保健施設 グループホームの利用

また、高専賃「ほほえみ」では、福祉サービスと見守りのサポートを加えることで、今までの生活をより安心して続けることのできる機能をもった住宅を提供していました。取材を通じて、近くに支援者がいる安心感と個々の生活（プライベート）のバランスのとれた住環境は、生活の支えになるということが見えてきました。

それぞれの取材から、生活の質を充実していく上では、建物とそれを取り巻く環境の両方を踏まえた「生活空間」をつくっていくことが必要で、住民の安心と満足度につながっていることが分かりました。今後さらに地域において選択肢の量はもちろん、質を向上させていく上でも、各地で生まれている実践から学ぶことが重要です。

つとに 「住まい方」を 考えていく

これまでの連載を通じて、ポイントとして見えてきた点は以下の2点です。1点目は、その人にあつた高齢期の住まい方を選択するために、「情報を集める」ことです。40代や50代の時から自分自身が高齢になった時の住まい方を考える場合もあれば、高齢になって環境や体調の変化から住まい方を変えようとする場合もあります。選択のた

必要な建



高齢者専用賃貸住宅



入居後の生活を振り返って
（「ほほえみ」入居者の木本さん）

「ほんとに不思議です。夜中に
心臓が苦しくなることも全然な
い。やっぱりこういう人たちが
いるということに安心感があっ
たと思う。」

在宅のまま暮らす

小規模多機能型施設
デイサービス
地域包括支援センター
ホームヘルパー
住宅改修
などを利用する

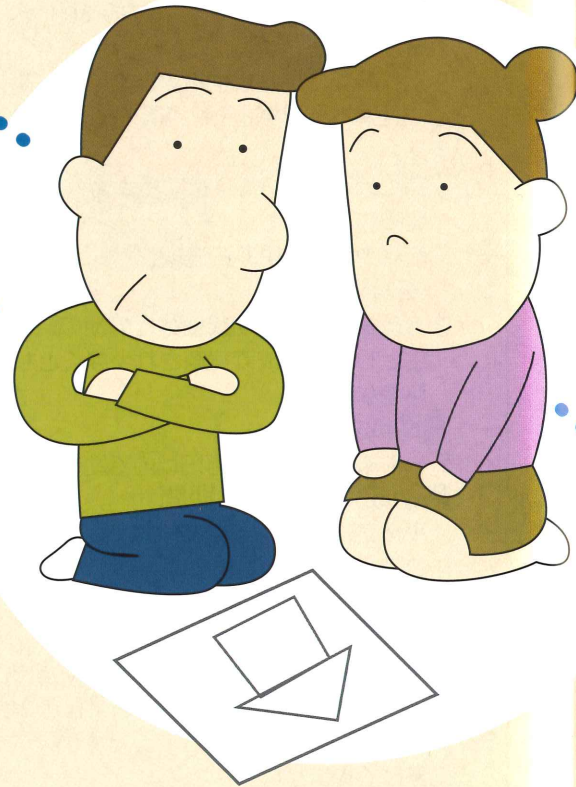
「住まっている」ということを大事にしたい。
普通の家の雰囲気の中、利用されている方が
居心地良く過ごせる環境を目指しています。

（小規模多機能型施設「松原のぞみの郷」管理者 上田さん）



参考記事

- 本紙493号（2009年9月）
～地域であたりまえの生活を自然に～
- 本紙495号（2009年11月）
高齢者の新たな住まい方を考える
- 本紙497号（2010年2月）
「暮らし」ともにつくる
生活の選択①コーポラティブハウス
- 本紙500号（2010年5月）
「暮らし」ともにつくる
生活の選択②高齢者専用賃貸住宅



めには、さまざまな情報を得ることが
必要ですが、独りで調べるには難しい
部分もあります。家族や同世代の友人
に相談したり、信頼できる相談機関と
つながりの中で一緒に考えていくこと
が大切です。

2点目のポイントは、住まいや生活
の多様化がすすむ中で、専門職側が、
住まい方や高齢者の生活についての「情
報を持ち、わかりやすく伝える工夫を
考えておく」ことです。住まいの選択
肢は広がりを見せていますが、その人
の暮らしをトータルに考え相談に応じ
る窓口は少ないと言えます。暮らしに
身近な、社会福祉協議会や地域包括支
援センター、介護支援専門員
などが、制度や地域にある資
源の情報を整理し相談に応じ
て提供することが、「住まい
の選択」を支える大事な要素
であると考えます。

共同募金配分金事業

平成22年度

「NPO・ボランティア活動助成プログラム」を
募集しています!

■助成趣旨

地域福祉の推進を目的とする共同募金の趣旨を踏まえて、京都府内で活動するNPO・市民活動団体・ボランティアグループ等が行う、福祉分野において社会性・公共性が高く先駆的・開拓的な事業を公募し、審査の上、一定の要件を満たすものに活動助成を行います。

■助成対象団体

- ①非営利団体であること、法人格の有無は問いません。
- ②平成22年度に「赤い羽根共同募金」の配分を受けない団体。
- ③京都市を除く京都府内を主な活動範囲とする団体。
- ④昨年度、本助成を受けていない団体。

■助成対象事業

対象分野は、地域福祉の推進を図る事業や、地域のまちづくりを推進する事業とし、下記のすべての要件を満たすものとします。

- ①福祉分野において、特に社会性・公共性が高く先駆的・開拓的な事業
- ②新規や活動規模の拡張など、一時的に資金が必要な事業（経常経費ではないこと）
- ③行政補助や民間助成金などの他の財源を主たる財源とせず、主として本助成で実施され少なくとも10%の自己資金負担が可能な事業

■助成金額

一件あたり10～30万円以内で助成します。

■助成対象の活動期間

平成22年10月1日以降に実施され、平成23年3月31日までに終了する事業とします。

■応募方法

申請書（A4版2枚）に必要事項を記入のうえ、添付書類とともに京都府社会福祉協議会あてに提出してください。物品購入および業者発注等が含まれる計画の場合は、必ず見積書（あればカタログ）を添付してください。FAX及びEメールでの応募はできません。

府内各市町村社会福祉協議会の案内の他、本会ホームページ「府社協ニュース」等で案内しています。ホームページから募集要項および申請書のダウンロードができます。

■応募締切

平成22年8月31日（火）《京都府社会福祉協議会必着》

【お問合せならびに申請書送付先】

京都府社会福祉協議会
地域福祉・ボランティア振興課（担当：田中）

〒604-0874

京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375

ハートピア京都内

TEL：075-252-6295

FAX：075-252-6311

ホームページURL <http://www.kyoshakyo.or.jp/>

ご寄付ありがとうございました

平成22年5月28日に近畿労働金庫京都府本部様より107,034円のご寄付をいただきました。社会福祉事業の発展のために活用させていただきます。

ありがとうございました。



介護・福祉サービス 第三者評価事業総会開催!

京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構は、平成22年6月28日（月）に京都社会福祉会館ホールにて、「平成22年度総会」を開催しました。

総会では、平成21年度事業報告、平成22年度事業計画等について審議、議決が行われました。

平成21年度は計194件（介護分野155件、福祉分野39件）の受診があり、平成15・16年度の京都府による試行事業を合わせると総計1,031件と千件の大台を超えました。

この数字は、東京都に次ぎ全国で2番目に多い件数です。また、平成22年度事業計画として、「第三者評価事業が事業者及び利用者にとって信頼と安心を提供できるツールとして、本事業の啓発・普及をはじめその目的達成の諸事業に取り組む。」などの方針が承認されました。

詳しくは

京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構

<http://www.kyoto-hyoka.net/hyoka/top.html>

をご覧ください。



新規賛助会員の紹介

平成22年3月15日の理事会におきまして、(株)アイティーオー様、ピースオブヘアー様、名鉄観光(株)京滋支店様、中央法規出版(株)大阪営業所様、(株)きかんしコム様の賛助会員加入が承認されました。福祉と企業を結ぶ“パートナー”として今後ともご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

本会では、社会福祉施設、団体等を対象とした会員に加えて、本会の趣旨に賛同いただき、共に歩む“パートナー”として、京都の福祉を進めていただく企業様を賛助会員として募集しております。会員になっていただきますと、本紙「京都の福祉」の送付をはじめ、①社会福祉に関する情報をお届けします。②また、本会で推進しております「福祉パートナー事業」において次のようなニーズにお応えします。

- STEP 1 知る** 地域展開型CSR活動に関する情報提供
- STEP 2 はじめる** 気軽に始められる地域展開型CSR活動のメニュー紹介、社員の福祉研修などのコーディネート
- STEP 3 すずめる** 企業の本業を生かした協働プログラムの開発・実施

詳しくは本会総務課 (TEL075-252-6291) までお気軽にお問い合わせください。

社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

ホームページでも内容を紹介しています。
<http://www.fukushihoken.co.jp>

安全・健全な施設運営のために!

プラン1

施設の業務中事故賠償補償

- ① 基本補償
 - 法人業務を包括的に補償
 - 賠償責任のない場合の見舞補償も充実
- ② 個人情報漏えい対応補償
 - 個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合(おそれのある場合を含む)に補償
 - クレーム対応費用、見舞品購入費用等を補償

プラン2

施設利用者の傷害事故補償

- ① 入所型施設利用者
- ② 通所型施設利用者
- ③ 不特定多数利用者

プラン3

施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

- 施設送迎車に搭乗中の傷害補償
- 施設の過失の有無は不問

プラン4

施設職員の災害事故補償

- ① 施設の労災上乘せ補償
- ② 施設職員の傷害事故補償
- ③ 施設職員の感染症罹患事故補償

プラン5

施設の什器・備品損害補償

- 施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
- 施設の現金等も補償

◆ 皆様のご信頼をいただき、全国多数の施設(法人)が加入!

- 全国社会福祉協議会のスケールメリットを活かし、充実した補償内容
- 団体契約のため有利な補償と割安な保険料(掛金)
- 迅速で丁寧かつ適正なお支払い

● この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「傷害保険」「労災総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

● 詳しい内容のお問い合わせは下記にお願いします



社会福祉法人
全国社会福祉協議会



株式会社 **福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763

〈引受幹事保険会社〉株式会社 損害保険ジャパン

夢中!・熱中!ふくしびと

～だから続けたいこの仕事～



福祉の現場で働く人たちの熱い思い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で“熱い福祉”を“夢中”で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいを“生”の声でお届けします。

企業で5年勤め、あんびしやに勤めて4年目になります。障害者福祉の仕事は初めての私に「この雰囲気大丈夫?」と上司に気遣われましたが、前職で身に付いた習性が良くも悪くも効果を奏し初日から妙に馴染んでいたのを覚えています。

様々な人達とつながりながら

京都梅花園 障害者支援施設あんびしや
就労支援員 荒木 さや香 さん

当施設は個々の目標や課題に応じてグループに分かれ、1年目はグループ担当からスタートし、自閉症の方達の支援も短期間経験させて頂き慌ただしくも楽しい日々でした。

の職務を教えてもらうようになり、開拓・実習・雇用定着を通して就業・生活支援センターやハローワークと協力し合い、今でも大変お世話になっています。上司に勧められ、ずっと受けたいと思っていたジョブコーチ養成研修を2年前に修了し、その理念を基に支援して

- プロフィール
- 施設名 社会福祉法人京都梅花園 障害者支援施設あんびしや
 - 氏名 荒木 さや香
 - 職種 就労支援員
 - 年数 3年3ヶ月
 - 夢中になっていること ピラティス、整骨院通い、DVD鑑賞、晩酌

なり、利用者の皆さんも今までの生活から一変、「社会に出るための訓練?」「就職?」と戸惑いが大きい時期でした。それは失礼!と感じる言動も平気でなされ対応に困り悩みましたが上司や先輩の支えもあり信頼関係も築けるようになりました。変化が見られたのは秋になり2人の利用者が就職した頃です。「絶対就職なんかしない。(うごに住む)」と豪語していた女性と、実習を怖がっていた男性が会社見学や面接に前向きになり始め、訓練の姿勢も変わりグループ内の雰囲気の良い方向に廻り始めました。仲間の成長という横からの刺激が一番影響力が高いと実感しました。

徐々に企業への就労移行

多くの、私自身も就労支援の場数をどんどん踏んで経験値を上げ、専門知識を積み重ねていきたいと思う日々です。通勤支援から仕事のやり方・相談に至るまで自立度に応じ支援の介入を減らしていきますが支援員に求められる姿勢は会社毎にやや違うので歯痒い時もあります。しかし会社や施設の色々な立場の人と関わり教えを受けられることはすごくプラスになり、感謝しています。

就労支援に終わりはなく「就労」と「暮らし」を支えるには地域の社会資源や職場・家庭の力は欠かせませんので、連携は密にとっておくよう心がけています。場面毎に「見極め」が求められ悩みますが、利用者の方が働いて自信を付けられ、生き生きと活躍する姿を見ることや、ご家族の言葉、様々な人達との繋がりが今の私の支えです。

京都の福祉 毎月1日発行

発行所 京都府社会福祉協議会
発行人 宮本 隆司

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375
TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310
URL <http://www.kyoshakyo.or.jp>

「京都の福祉」へのご意見、ご感想、とりあげてほしいテーマなどをお寄せ下さい。表紙の写真も募集中です。(テーマ「笑顔」)

本会へのご意見等は、左記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

